これが私の性奉者です
キャプテンのオナホに堕ちるまでの一部始終
THE猥談

SoftPunk 4G
お母さん
受かってた！！
おめでとお！！！
信じてたよぉ
お父さんにも報告した？
ふふ…
お母さんめっちゃテンション上がってる…
○○駅～
そうだ、そうだ…
お父さんにも報こ…
○○駅～

ごめんお父さん…
それどころじゃないや…

はぁ…
先輩今日もかっこいいっ…
みちる球ひろえ！！
ゆかもみてよぉ～！
はいはい
みたみた
先輩ね
電車でたまたま見かけて
一目惚れして
もう会えないかって
思ってたら
たまたま同じ高校にいた
運命の先輩ね
しかも野球部のキャプテンと
マネージャー！
ドキッ
そこは別に運命じゃないでしょ！

もうねっ
赤い糸ってやつっ
これはもうねっ！
きいてねぇ～…

ズッ
ブッ
先輩とっっ!!
漫画みたいなJKライフ
送るっきゃ
ゴト

ジン
ジン
ジン
だいじょぶ
だいじょぶです～
平気かぁ～？
大丈夫か～？
ごめんなぁ～…
てか浅倉さぁ…
上木の事ばっかみてるから
ボール避け損なうんだよ
ほわわ？
上木も分かってんだろ～
おい～

じゃあ、
付き合っちゃう？
ゴーン
ゴーン
ん。
まって何この空気
ええや〜ん
付き合っちゃえば〜
うぇ〜い
本気?!
うぅ〜
いいじゃ〜ん〜
いいじゃ〜ん〜

これ…いけんじゃね…?!
バッティングセンターなんて久々だよ
誘ってくれてありがとね
カバンもつよ
すみません?
い、いえ!
先輩に私のバッティング
見てほしいなぁ~
なんてぇ~…

HERIN
本当に？
見てほしいのはバッティングだけ？
そ、それは…
Meather
oqras jaur
GBL
な、なんですかその言い方！イジワルじゃないですか！
あはは
ごめんごめん
WAGO

アリッ
顔真っ赤
ビクッ
かわい。
ナイバッチ～！
ボゴォ
ボゴォ
ボゴォ

?!
せ、先輩っ
今帰りですか?!
ん?
んー
浅倉待ってた。
一緒に帰ろ?
っ!
はいっ!

めっちゃ
青春じゃん…

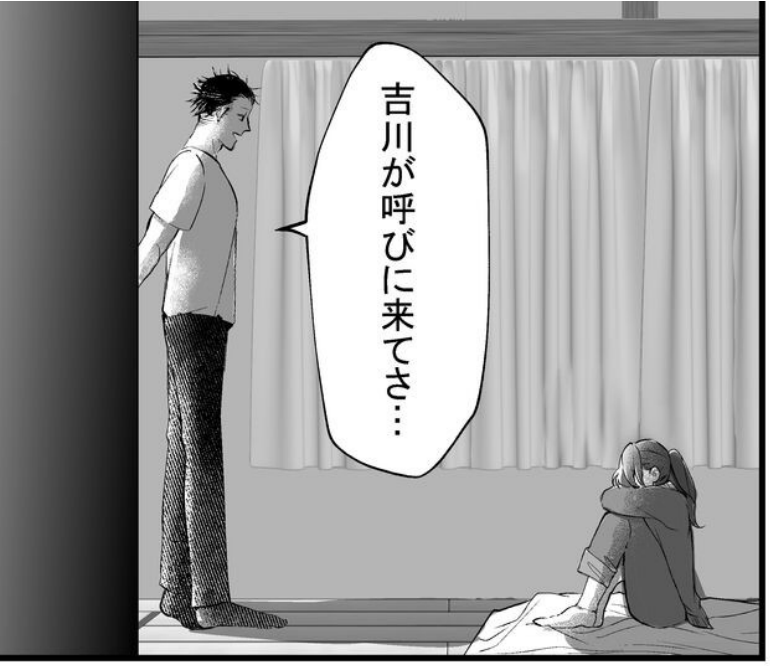
あぁ・・・
生まれてきて良かった
ありがとう
神様
私は
優しい
運命の先輩と
かっこよくて
最高ＪＫライフを
送りま……

スススッ…
……あ
ごめんなさ
ごめん。
なんか…
勘違い？
させちゃった…？

浅倉には俺よりもっと
いい人いるよ…！

あんたよく
その状態で
合宿これたね…
ぐぬん
だって…
先輩の事少しでも
見れたらそれだけで
幸せだし…
びっくりしすぎて
涙もでないし…
ぐっ
よしっ
ここに先輩呼んできて
あげる！
ドア
ばっ
ばっ？

今からでも
ちゃんと告白しなっ
そうしないと前、
向けないでしょ・・・？
うん・・・


吉川が呼びに来てさ…

浅倉

…大丈夫？

……
……先輩……

好キ
うん、ありがとう。
でも
好きです!!
好きなんです!!
生まれて初めての
大好きなんです!!
私には先輩が必要なんです
初めて見た時から
絶対運命の相手なんです

ごめん
先輩が何処かに
行っちゃう
駄目
馬木
馬木
馬木

バサッ…
バサッ
っ?!
なにして
私は先輩の——
特別になりたい——
少しでもそばにいたい…

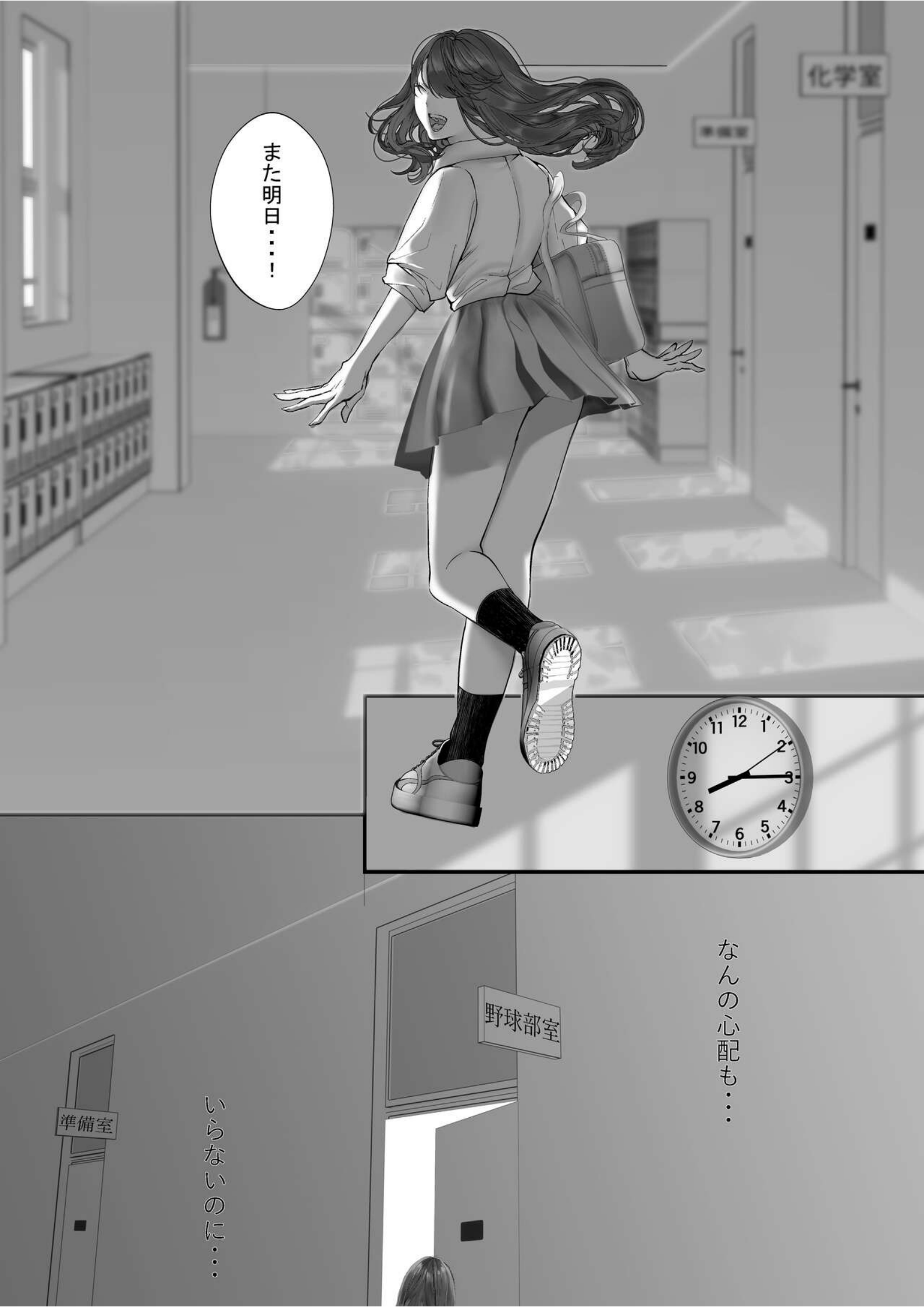
……
浅倉
ズルッ

なんで…
こんな事するの…？
…置いて行かないで…
ほしいからっ…
せんぱい

ちゅぽっ
ぬぽっ
ぐぽっ
ぬぽっ
ぐぽっ
ぬぽっ
ぐ

せんぱぁいぃ…

…はい。
あのさ…
しつこくてごめんだけど…
みちる…
先輩とちゃんと
付き合ってる…？
スルッ
カチッ
みちっ
ガラッ


また明日・・・！
化学室
準備室
11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
なんの心配も・・・
野球部室
準備室
いらないのに・・・

お、
お疲れー
だって
こんなに
最高の青春
してるよ・・・？

メガネのくノ一
あーいい。
もっと強く吸って
ちゅぽっ
ぬぽっ

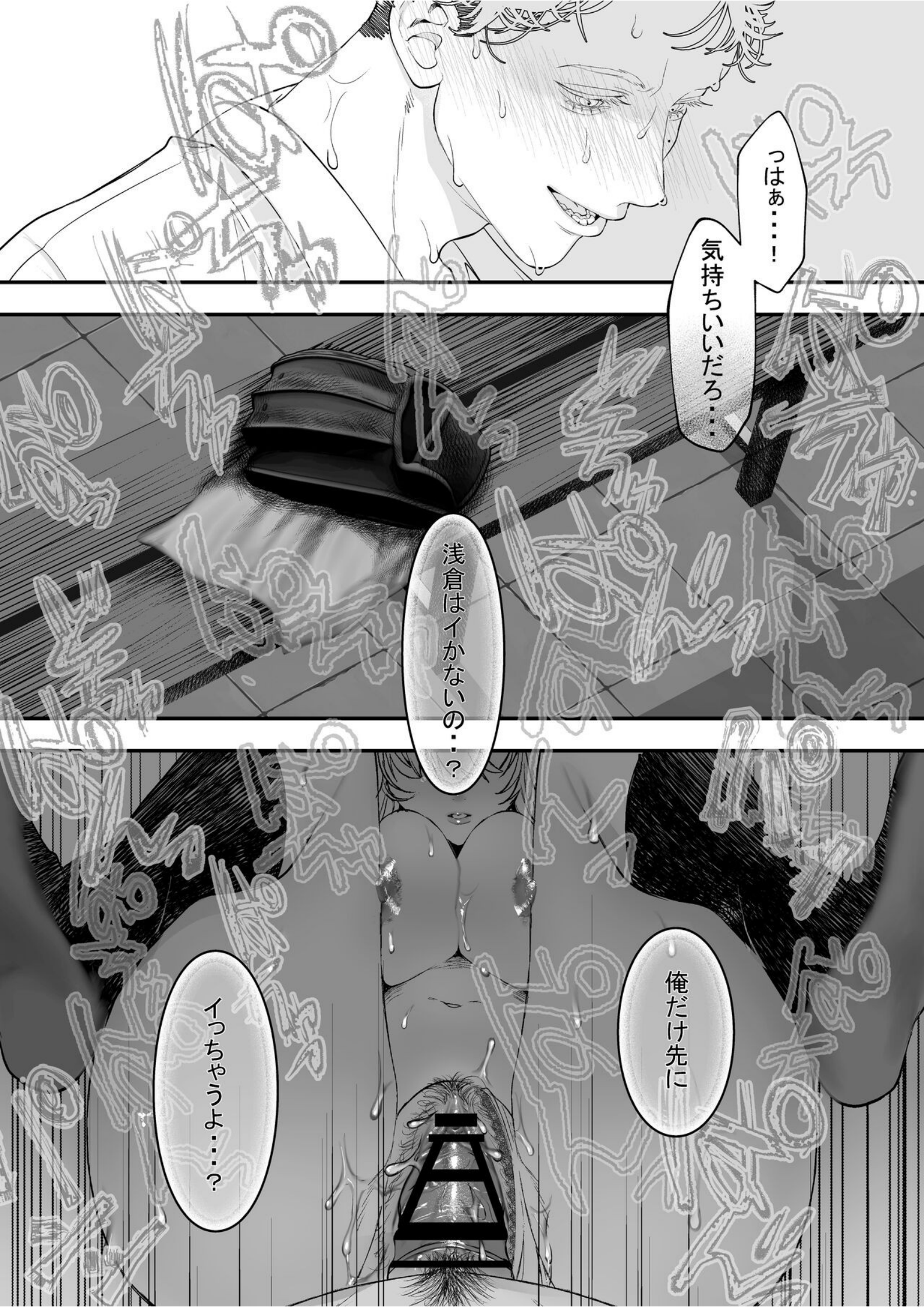
お…
ガッ
ボタ
ボタ
ボタ
ヤッ
あっ…
はー…
立って。
うしろ。
ぬぷぷ

ぱちん
ゆるい。
しめろ。
ぱちん
もっと。
ぱちん
もっと。

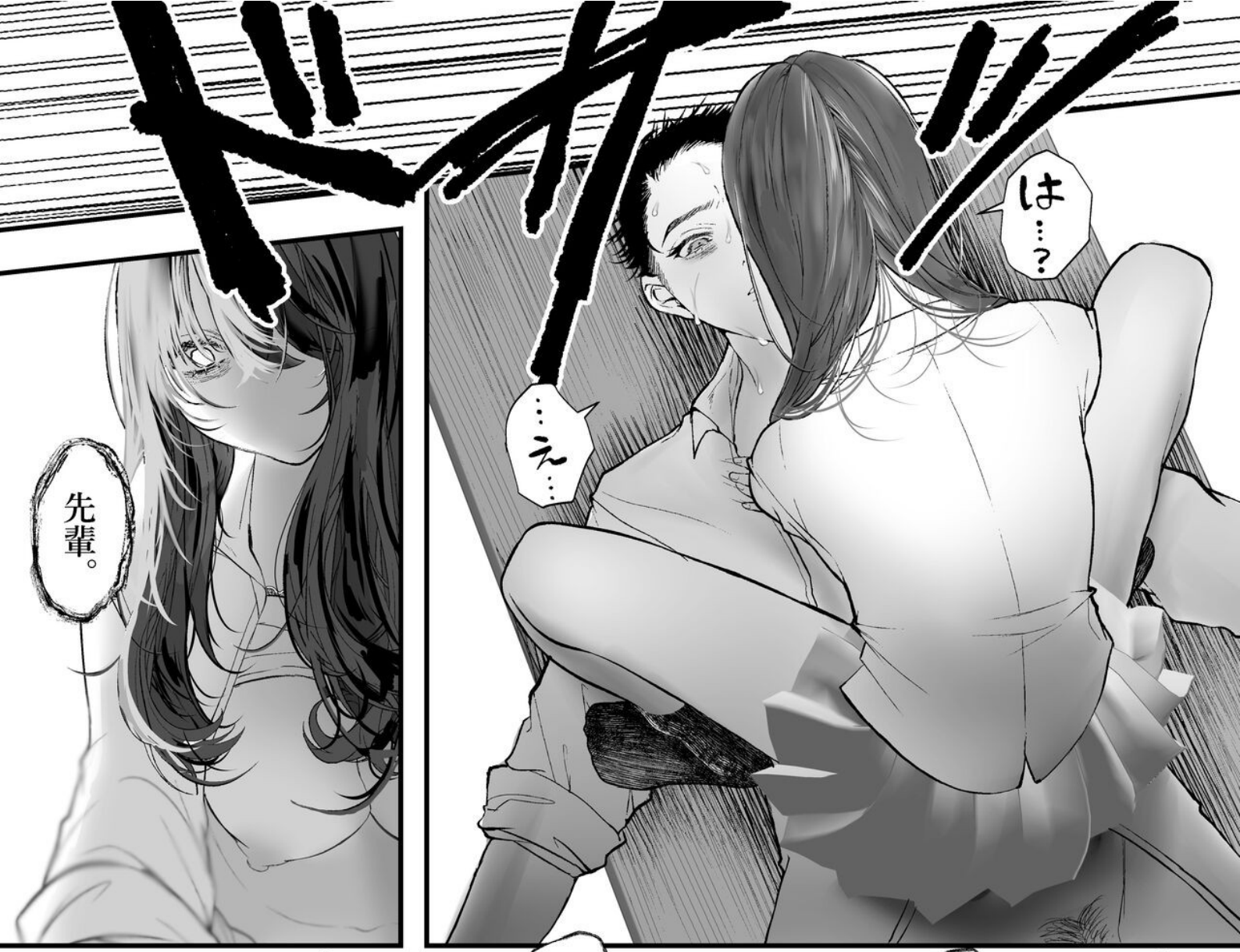
もっと
ふー
うしろ、もういいや——

ぉぉ…
せんぱぁい
ぱんつ
ずらしちゃ
だめぇ
せんぱいの
おちんぽ
はいって
きちゃう

集中出来ないから
黙って。


っはぁ・・・！
気持ちいいだろ・・・
浅倉はイかないの・・？
俺だけ先に
イっちゃうよ・・・？

ぁ…
ぉ…
ぐっ
はぁ…
ビュ…!!



先輩、どんどん先にいっちゃう

私、置いていかれたく無いんです。

仲良く…隣を歩きたい

でも、先輩速いから…

だから…

だから、私、追い付けるよう内緒で特訓したんです。

ふふっ…

特訓の成果
見てもらってもいいですか…？
キャプテン♡
は⁉
ちょっ
イったばっかだからッ‼
ぐぢゅっ
ぐぢゅっ

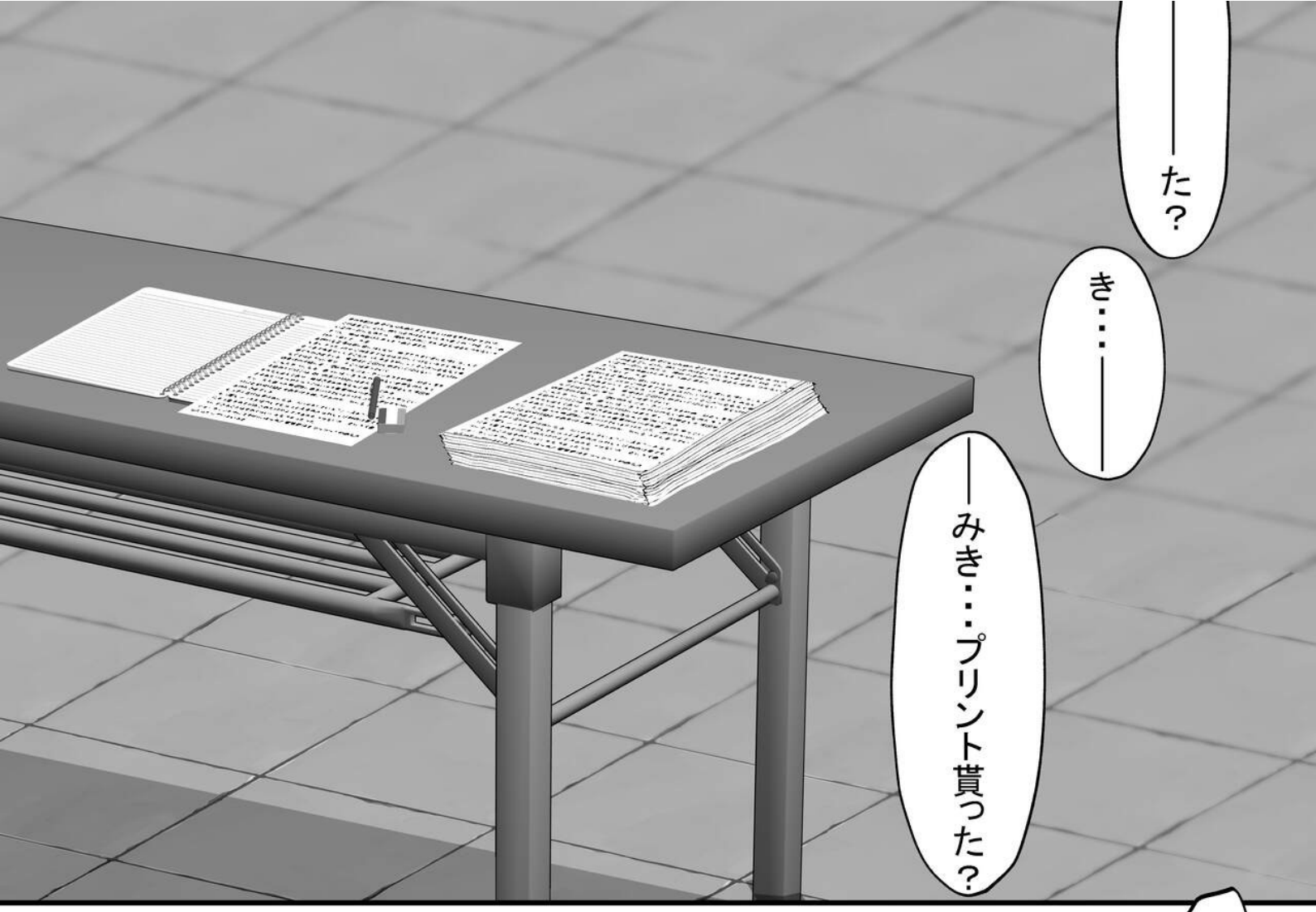
大丈夫、大丈夫です！私もいきます！
？
え
は
なにこいつ――
勢い余ってっ追い越しちゃうかも!!!!
ホーム狂つてやがる

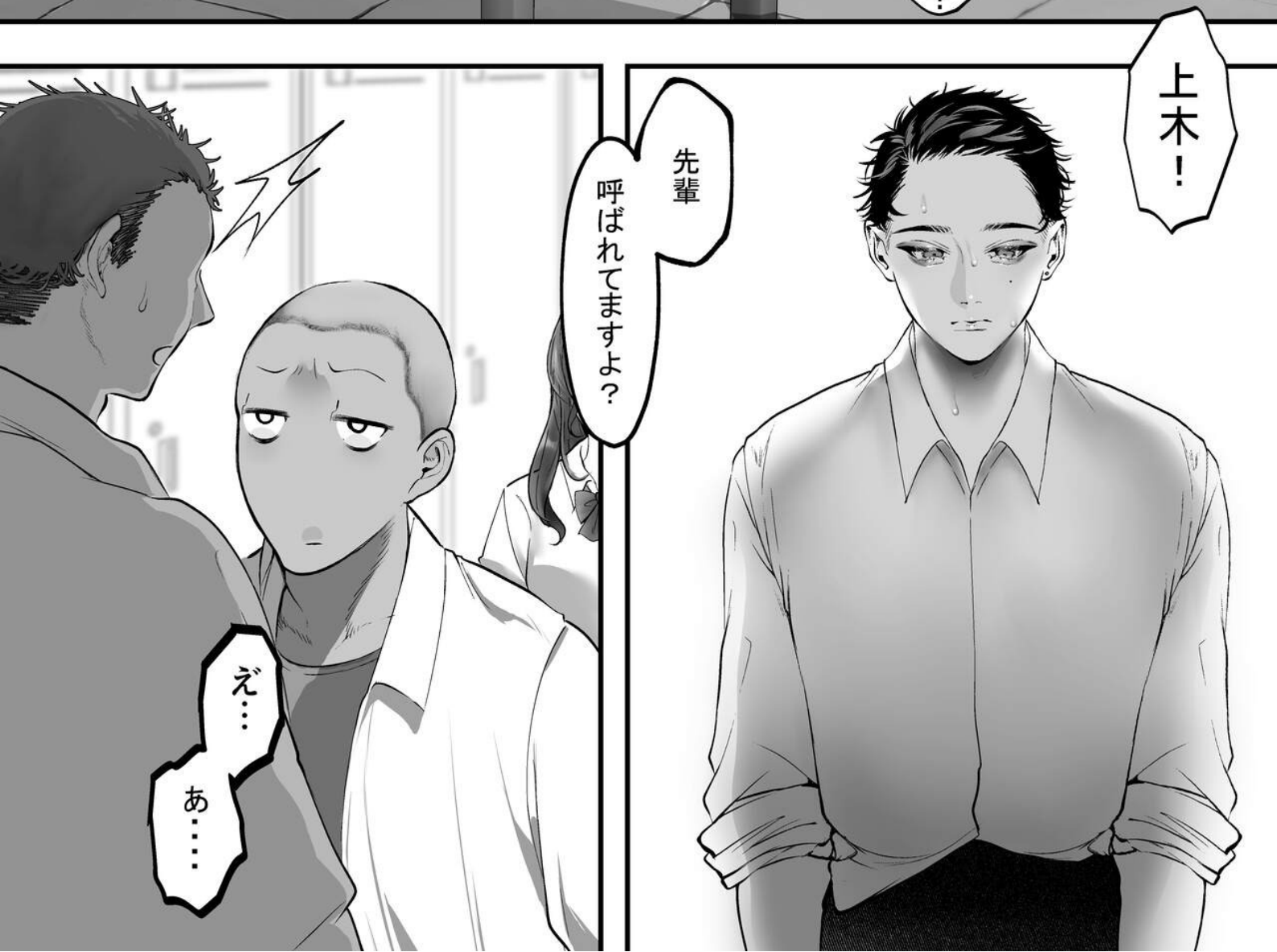
ちょっ
机ッ
壊れる!!
部室でこれ以上はッ

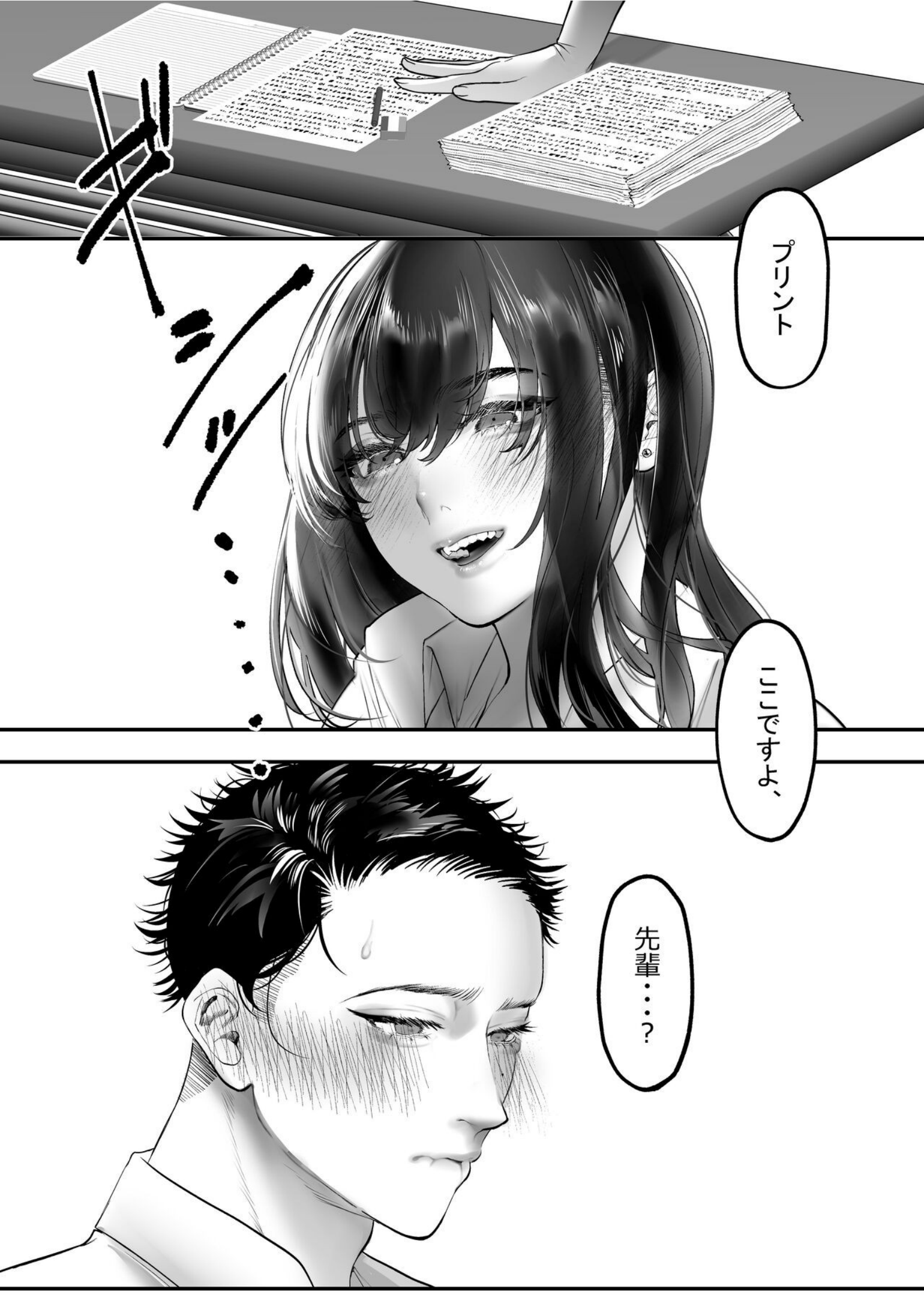
ちゅくっ
ちゅくっ
ぢゅっ
ぢゅるっ
ぐぐっ
ぢゅるるっ
ガブッ
ぬるるるっ…♥
ぐちゃ
ぐちゃ
先輩っ
がんばれっ
がんばれっ
アハハ！

追い付いたぁあ♡

っはぁ…
ビクッ…
ビクッ!
もっと沢山練習して
最高の夏にしましょうねー…
ビクッ…
先輩っ♡
ビクッ!…
ビクッ…
ピクッ…


——た？
き・・・——
——みき・・・プリント貰った？


上木！
先輩
呼ばれてますよ？
ぇ…
あ…


プリント
ここですよ、
先輩・・・？

あとがき

今回光栄にもTHE猥談様にてご紹介されている体験談を基に、漫画を描かせて頂きました。
（終わり方等、改変が多いので、原作様要素のある別物としてお読み頂ければと思います。）

先輩とみちるの"理想"や"特別"、"運命"の見え方の違いについて
打ち合わせを重ねてやっと形になったのが本作になります。

付き合う事で、セックスする事で、
何を求めるのか、何に執着するのか…

歪んでドロドロとしたモノを感じて頂けたら幸いです。

ここまでお読み頂きありがとうございました。

鶯ノ宮うかつ

中学3年の秋、電車で一目惚れした野球部のセフレに成り下がるまでの一部始終

原案 - 柊彩さんからのTHE猥談

中学3年の秋
電車でどストライクの野球部坊主を見つけた。

私のタイプそのものだった。
大きな目に完璧な二重と綺麗な涙袋
クシャッと笑うとなくなる目と浮き出るシワ

彼のいる野球部に入部して、暇さえあればセカンドを守る先輩を目で追っていたから
すぐ他の部員や先輩にバレた。本人の耳に届くのも早かった。

映画やバッセンに二人で行ってチャリニケツして
これ付き合えるんじゃね？めっちゃ青春！最高JKライフ！とか思ってたけどあっけなく振られた。
三振。スリーアウトチェンジ。

それでも好きでたまらない。先輩も知っている。
どうにかして先輩に、触れたかった。
特別な存在になりたかった私は、夏の遠征の夜、私の部屋にこっそり先輩を呼んで初めてを捧げた。

それからというもの先輩は私を求めてくれるようになった。

練習がおわりボールやバットを部庫に片付ける。
部庫で先輩は私の耳元で、「今日する？」と囁きバッティング手袋をした手でおしりを触ってくる。
「はい。」

部活が全て終わりもう夜の20時。
他の部員はそそくさと帰っていく。
先生も警備員も帰り、学校には誰もいない。

私はマネ室でジャージから制服に着替え、スカートを捲る。そして先輩のいる部室に向かう。

部活終わりの汗の匂いと制汗剤の混ざった匂いがする部室。そこに1人だけグローブを磨きながら座っている先輩がいる。

「お疲れ様です。」
「お、おつかれ〜」

私の一番好きな時間が始まる。
私は部室に一つだけある机の上に乗り
先輩は電気を消した。

慣れた手つきでスカートの下から手を入れてパンツを脱がせる。
指を入れられ、先輩の舌が私の中を掻き回し、もうビショビショ。

「もう濡れてるの？ここ部室だよ？変態だね」

そう言って大好きな笑顔で笑いかける
軽くイってる私を見てまた激しくいじる

机の上に足を広げて座ってる私の中に、
さっきまで部活で汗をかいていた先輩の生暖かい温もりが入ってくる。野球部の体力は半端ない。

力強く押し付けるように先輩の巨根が
私の奥に何度も何度も入ってくる。
パンパンパンパン…

街灯の明かりだけが差し込む薄暗い部室に響き渡る音。
さっきまでみんなが使っていた部室でこんなことをしている自分に興奮してまた濡れる。

「あ、もうイク。」

先輩がそう言って、私もほぼ同時にイき、部室セックスは終わる。

次の日、何も知らない他の部員が机を使っていて少しの罪悪感を覚えながら昨日のことを思い出して濡れる。

次はいつかなって毎日ドキドキしていたあの頃を思い出しながら、
卒業して数年たった今も大好きな先輩とのセックスを楽しんでいる。